

# やまぐち自然派宣言

共生から共生へ⑤

エベレスト街道トレッキング

平成23年を振り返って

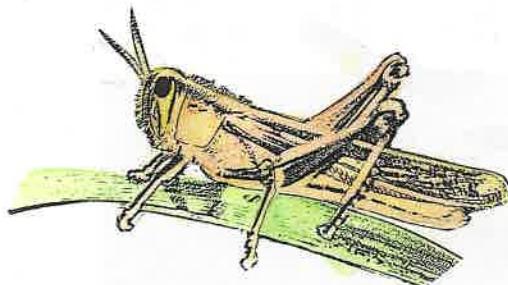
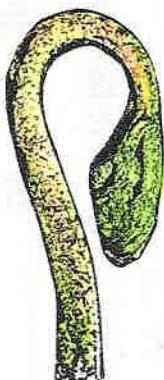
第9回日本オオサンショウウオの会  
山口県岩国市錦町大会の報告

アクアソーシャルフェスー2012  
～梶野川もり・かわ・うみ自然  
再生プロジェクト～ 報告記

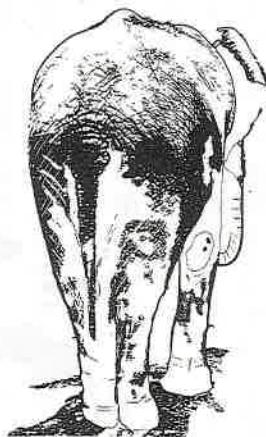
自然観察指導員講習会を終えて

第9回リレーマーティング

in 竜王山 報告



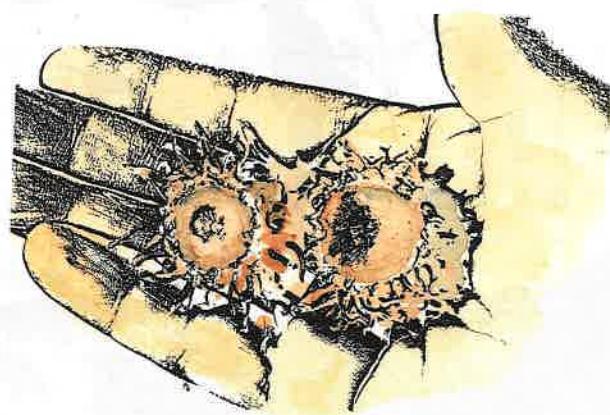
# 共生



祝  
表彰

共生隨筆

ワークショップはステキな手法  
ワークショップはおもしろい  
弟見山のカタクリの保護  
技術者教育と生命科学



やまぐち自然共生ネットワーク

平成25年2月28日

## 共存から共生へ ⑤

用語の変遷をめぐつて

「人間環境宣言 前文」

自然の世界で自由を確保するためには、

自然と共調して

より良い環境をつくるための知識を活用しなければならない。

ストックホルム会議「一九七二年」における「人間環境宣言 前文の六」より

人間環境宣言では、良い環境をつくるためには「人が自然と共調」する必要性が語られ、その後日本では、一九八〇年頃に「人が自然と共生」の用語が使われるようになつていった。



## エベレスト街道トレッキング

開村修三

我々十一名（女性5名、男性6名、参加者は鳥取、大分、福岡、山口県からなる。）のネパール側からのエベレスト、トレッキングは、昨年十月二十八日に始まり十一月十一日までの十五日間の行程であった。この度は香港経由でカトマンズに入った。小生は、ネパールは三度目であるけれど、エベレストを眼前に見るということは永い間願いながらも今迄実現しなかった。高山病、乾期でないとという条件を入れると最低でも十五日間は必要ということで、しかも「ルクラ」への飛行は世界一危険なルートと聞いていた。実際テレビを見ていた際に飛行機が墜落したと丁度一ヶ月前にニュースがでた。何度か計画を一部中止するか検討したが、一人を残して小生に一任するということで計画を続行し、最後になつて一人も同意してくれて一緒に行動することができた。同乗してきた一人のネパールの若い女性が乗車中必死でお念仏を唱えていたことも後から聞いた。ルクラ空港は絶壁の断崖上に四百六十メートルの滑走路があるみるからに危なげなものだった。ここから歩いて歩いて、途中ヤク、子馬、水牛たちと道や

橋の上ですれすれで離合するなどして後にしている人々、動物もそれぞれ一生懸命に生きていることに感動した。ナムチエバザールからラマ教最大の寺があるタンボツエへと向かい、シェルパの里クムジンを通り、四千メートル近くのシャンボチの丘にある世界最高所のエベレストビューホテル（日本人が作った）からは、エベレスト、ローツエ、アマタブラム等の山々を見渡せ感嘆の極みだつた。途中、三浦雄一郎氏らと出会い、NHC（会長、開村）の活動のうち救急車をネパールへ送つたなどから、ネパールの大統領とも二度のボディーチェックの後、会見することができた。



の万葉の森ウオーキングは、十一名で一月十三日に実施した。参加者は厚狭、防府、周南、光からだつた。森の中にナギの木、カリんの木、その果実のひとつが落ちていたのでその効用などを語り、ホーの木の葉を手にとつてみせたり姫シャラ、ヤシャブシの幹肌などに直接触れて貰つたりした。視覚障害者ははじめての体験なので驚いたり感動したりしていた。最後に東屋で美味しいイチゴを賞味しながら自己紹介、感想などを述べ合つた。山口ささゆり会では月一回（第二日曜日）万葉の森をウオーキングしている。参加してみたいと思われる方は一緒に森を楽しみませんか。

さて、新年最初の視覚障害者との周南市内

## 平成23年を振り返って

### 第9回日本オオサンショウウオの会

### 山口県岩国市錦町大会の報告

錦川オオサンショウウオの会 白井啓二

第9回日本オオサンショウウオの会 山口県  
岩国市錦町大会が平成24年9月29日30日  
日に開催され、オオサンショウウオの研究者、  
保護団体など、全国から100人が参加しました。  
した。開会式には山本繁太郎山口県知事、福田  
良彦岩国市長をはじめ多くのご来賓の皆様  
にお越しいただきました。

第7回岡山県眞庭市大会の時に、2年後の  
開催地として決定し、それから準備を進めて  
きました。まず、引き受け団体の「錦川オオ  
サンショウウオの会」を設立し、会員を募り  
ました。その結果、大会当日は、スタッフ8  
0人。全国から来られた方もスタッフの多さ  
に驚いていました。半年前に実行委員会を立  
ち上げ、週一ペースで会議を重ねてきました。  
それに合わせて、セーブジャパンの事業を行  
い、観察会、勉強会、生息地周辺の清掃活動、  
保護活動の看板設置など計4回の事業を行  
ました。小学生、中学生、高校生、一般のみ  
なさん、延べ150人のみなさんに参加して

いたしました。本物の野生のオオサンショ  
ウウオを身近に見てびっくりしていました。

全国大会は9月29日、岩国市錦町の錦ふ  
るさとセンターをメイン会場に開催されました。  
12時から受付開始、13時から日本オ  
オサンショウウオの会の総会、13時30分  
から開会式を行い、はじめに、大会実行委員  
長の畠原基成県議会議員が挨拶、つづいて日  
本オオサンショウウオの会の桑原会長が挨  
拶、来賓の山本繁太郎山口県知事、福田良彦



岩国市長が挨拶し、その後、地元の生息地の  
保護活動を行っている岩国市立宇佐川小学校  
の児童のみさんが大会に合わせて表彰され  
ました。開催地紹介で、地元の岩国高校広瀬  
分校の生徒のみさんが手作りのDVDで岩  
国市の素晴らしさを紹介しました。基調講演  
を防府市の高川学園の村田教諭が「宇佐川の  
オオサンショウウオの調査について」話され  
ました。休憩の後、各地からの研究報告で、  
鳥取県日南町の小学6年生「日野川における  
オオサンショウウオの分布調査」、京都大学  
の松井正文教授の「京都市産オオサンショウウ  
オの現状」について、京都には食用として  
の松井正文教授の「京都市産オオサンショウウ  
オの現状」について、京都には食用として  
の松井正文教授の「京都市産オオサンショウウ  
オの現状」について、京都には食用として

輸入された中国産のオオサンショウウ  
オが川に放され、それがハイブリッドと  
なり、現在、日本オオサンショウウ  
オは1ペースント、近いうちに全滅するだろ

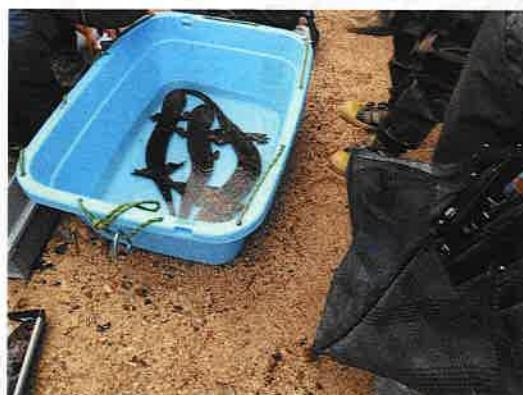
う、それが全国に広がらないようにしなければならないとのことでした。第10回大会は京都で開催されます。広島県東広島市から「地域と大学との連携による保護活動をめざして」というテーマで広島大学総合博物館のみなさんが発表されました。東広島市は第11回大会開催地です。「兵庫県市川水系におけるオオサンショウウオの生態」について日本ハンザキ研究所の橋本理事長が話し、東京の河井さんが「自作グッズの制作、販売で楽しむオオサンショウウオを応援」、生息地の西限、大分県宇佐市の教育委員会の「オオサンショウウオの生態調査の概要報告」、広島市安佐動物公園の研究員の田口さん、足利さんによる「飼育によるオオサンショウウオの繁殖から分かったオオサンショウウオの繁殖生態、産卵の分析」興味深い話でした。鳥取大学岡田先生の「鳥取県南部町東長田川におけるオオサ



ンショウウオの現状について」北広島町の「三ちゃんS村の活動」、日本ハンザキ研究所の田口さんの「オオサンショウウオの七不思議」、清水さんの「三重県のオオサンショウウオ保護活動管理指針2002の10年」、高川学園科学部の「宇佐川のオオサンショウウオについて」、地元宇佐川小学校の「オオサンショウウオの学習報告」、岩国土木建築事務所の「宇佐川堰堤浚渫工事に伴うオオサンショウウオ生態調査」、最後に私が「錦川オオサンショウウオの今後の取り組みについて」で報告会を終わりました。美祢市の林業家のチェンソーアートでオオサンショウウオを3体作つてもらいました。現在もふるさとセンターホールに展示しています。



全国からの研究者がウェットスーツを着て、ライトと網を持って川に入ると、6匹のオオサンショウウオを見つけました。2日目も朝早くから、堰堤直下の生息地に行きましたが、10匹のやせ細ったオオサンショウウオを見つけました。研究者たちは日々に「こんなやせ細ったのを見たのは初めて」、堰堤直下にオオサンショウウオの個体数が増えすぎて工事が不足しているからだろうとのことでし  
た。緊急保護して飼育し、ある程度大きくなり自然に返すのがベストだらうとのことでした。これからその活動がスタートしようとしています。



## アクアソーシャルフェスー2012

～ 槌野川もり・かわ・うみ自然再生

プロジェクト～ 報告記

樌野川流域地域通貨・連携促進検討協議会

岡 秀夫

『企業と社会と地域住民が相携えて、より

よい明日を作ろう』と、トヨタ自動車の協賛で、全国五十カ所で水辺の環境保全の取り組みが始まった。

山口県では、樌野川流域連携の取り組みが認められ、多くの仲間が一緒に考え、楽しみながら、汗を流し【山口湾にアサリを呼び戻すため、樌野川をキレイにしよう】を合い言葉に活動が始まった。

この取り組みのお約束で、三回の継続イベントを組むことになった。

### 第一回目 アサリの生活環境再生を目的に 「干潟耕耘作業」

五月五日(ハ)じもの日)はれ。午後一時公募に応じて二百名を超す仲間が集まつた。

先ずは腹ごしらえ。朝早くからフシノメンバーと漁協婦人部の皆さんにより、山菜、稚鮎の天ぷらやアサリ汁に満足。開会セレモニーに続いて高速作業開始。やまと耕耘・うね耕耘・母貝団地増設・生物観察会



作業後集合写真



干潟耕耘作業

### 第二回目 横野川の源流を守る運動発祥の地 「四季の森整備作業」

六月十日(日曜日)はれ。大学生や県市の職員、更に一般公募の皆さんに地元仁保自治会の方々もご参加頂き、総勢八十余名。先ず平成十三年に突如として持ち上がった産業廃棄物処分場対応運動と、四季の森との関わりや、地域通貨フシノについて説明。

続いて動力刈り払い機や長柄の中刈り鎌の

使用等安全上の注意喚起

後、下草刈りを実施。川や海に思いを馳せながら、作業に汗を流した。

「樌野川の源流を守る運動」の経緯な



ど年と共に人々の記憶から薄れしていくのがチヨット寂しい思いがしたが、何とか語り継がなければならないと痛感したところである。

### 第三回目 槵野川「まる」と体験ツアーリ

八月十一日（土曜日）に子供たちを対象にバスツアーを企画したが、生憎の荒天でやむなく中止となる。

### 第四回目 槵野川中流域の活動「榎野川まること体験学習、アユ産卵場整備作業」

九月二十九日（土曜日）はれ。会場を小郡ふれあいセンターに設け、「榎野川の源流を守る運動について」（岡事務局長）、「森を楽しむ」（吉光副会長）、「アユから見た榎野川」（田中理事）、「榎野川河口の干潟について」（元永明）。

県主任技師  
からそれぞれ

榎野川の現状  
について説明。



続いて榎野  
川流域の山野  
に自生する草  
木（アカネ、コ  
ブナグサ、タ  
ブ、クヌギ）を



榎野川天然アユの塩焼き



草木染め体験

染料として草木染めを体験。各自目前のハンカチを貰つてご満悦。

お昼は、榎野川天然アユの塩焼き、シジミ汁とおにぎりで腹ごしらえ。

午後からは、いよいよアユの産卵場の整備作業。総勢七十余名。

アユの産卵を促すため、川底の礫を均一に敷き詰め礫間の砂の掻き出し、こぶし大の石を除去するなど、榎野川流域活性化交流会の皆さんのご指導を頂いて完了。

三回の企画を無事終えることができた。

多くの皆様のご参加を頂くとともに、トヨタ自動車及び山口新聞の積極的なご助言をいただき、心からお礼を申し上げます。今後とも榎野川のすばらしい環境を後生に引き継ぐため、尚一层のご理解とご協力をお願ひいたします。



アユの産卵場整備

## 自然観察指導員講習会を終えて

山口県自然観察指導員協議会

事務局長 大田和彦

はじめに、「自然観察指導員」とは、地域に根ざした自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダー、自然保護教育の実践者です。講習会で養成される自然観察指導員は、「資格認定」されるものではなく、日本自然保護協会（NACS-J）に「登録」されるものです。「自然観察指導員講習会」とは、3日間の日程で行われる室内講義や野外実習を通して、自然保護の基本的な考え方や自然観察の方法・指導の実際を学ぶものです。主催は、日本自然保護協会及び自然保護・自然保護教育に賛同する団体です。受講対象は「自然保護について関心が深く、自然保護教育の重要性を認識し、自然観察の指導推進に意欲がある満18歳以上の方」となっています。

今回、山口県では5年振りに自然観察指導員講習会が、平成24年10月26日～28日、国立山口徳地青少年の家で行われました。定員60名に対し、参加者は30名と少なかつたのですが、県外から11名の参加があり、鹿児島や名古屋からの参加もありました。受講生は、それぞれ各地域で活躍され

ている人ばかりでした。講師陣は、NACS-Jから清末幸久氏、田畠清霧氏、地元講師として田辺護（植物）、田中浩（動物）、赤間正（地質）の各氏です。それぞれ第一線で活躍しておられる人ばかりです。

事務局としてNACS-Jの大野正人氏には講習会全般に渡り大変お世話になりました。

初日の講義は、「自然の保護」について田畠氏より熱く分かりやすい話がありました。身近なところで、自分で考え、気づき、行動することの大切さや生態系や生物の多様性（生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性）を保護することの重要性が分かりました。

2日目の講義は、「自然の観察」について清末氏より、自然を観察していく中で、自然保護について考え、活動していくことが大切であること、自然観察会をすることにより、自然を豊かなまま次の世代に渡すこと、自然



観察会の3つの要素…自然に親しむこと、自然を知ること、自然を守ることや自然観察の危機管理「さしすせそ」最悪を想定し、慎重に、素早く、誠意を持って、組織で動く等実際に観察会で役に立つ具体的な話を聞くことができました。

2日目の野外実習「地域の自然を理解しよう」で、植物、動物、地質についてそれぞれ50分ずつ野外実習が行われました。植物については、森の見方、植物の見分け方、表徴種、フィトンチッドなどについて学びました。動物については、糞や巣穴の観察に始まり、巣穴がどれくらい延びているか実際に土を掘つて、縦横に延びていることを発見することができました。

地質では、様々な岩石を前に、火成岩、堆積岩、変成岩についての説明を聞いた後、岩石をこの3グループに分ける作業をしました。受講者は、だいたい正しく分類することができていまし



た。

午後の野外実習「自然観察のテーマ探し」では、清末、田畠、大野の3氏から観察実習を通して学びました。大野氏からは、五感・ネイチャーフィーリングを大切にする意味で、ネイチャーゲームと土壤の通水検査を行い、裸地と落ち葉のある場所の違いを明確にすことができました。田畠氏からは、自然に配慮した照明器具の設置の仕方、土壤の浸食防止、自然の色の観察や記録、乾いた所・暖かい所捜しなどの活動をしました。清末氏からは、ネムの古木を観察し、わざることや履歴を考え、仮説を立て、検証し、保護することと、アメリカネナシカズラの観察を行いました。

3日目の野外実習「自然観察会をしてみよう」では、5人ずつ6班に分かれて一人5分程度のミニ観察会を行いました。これは、受講生各自が交代で指導員とな



り他の受講生が生徒となる形式です。「皆の前で自分の言葉で発表するということは緊張するものだ。しかし、みなさん個性はまちまちのよう各自その人らしい観察テーマとストーリーで実施され、その都度講師のアドバイスや講評も得たものであつた。話す立場と聞く立場の両方を経験でき、得るところの大きなミニ自然観察会でした。」のような受講生の感想がありました。

初日、2日目ともに講習後は、全員参加しての懇親会「講師陣、参加者を交えての自己紹介、情報交換も交え話が弾み、時間も忘れあつという間に夜は更けていくのでした。それについて自然の話をするとときはみな笑顔ですねー」の感想がありました。また、講習を終えての感想として、「自然を目の前にして、知識が先でなく、生のものを観て、接していく感性を刺激できるかだと確認できた3日間であった。」「今回最大の収穫は、たくさんの素敵なか仲間と知り合えたことです。講師受講生含め、性別も年齢も身分も経験も、そして、個性と感性、視点も異なるが、みな自然を愛する人々でした。自然観察は、人間観察でもありますね。刺激を受けました。今後とも、自然に親しむ活動を地道に続けたいと思います。」等があり、講習会は良かつたという評価が多かったように思います。

講習会終了後、山口県自然観察指導員協議会に県外を含め19名の加入がありました。

これで、会員数も125名となりました。これから一層、自然保護保全活動に努めていきたいと思います。山口県自然保護課等関係各位には大変お世話になりました。



## 第9回リレーミーティング

in 竜王山 報告

本山会 嶋田紀和

2012年10月13～14日、山陽小野田市の「きらら交流館」で両日それぞれ300名の参加者の元、「第9回リレーミーティング」が開催されました。引受は山陽小野田市と本山会でした。

### ■本山会とは

本山会は地域のまちづくりグループとして1994年に設立されました。2000年に策定された地域のまちづくりビジョンのキーワード「自然と歴史を活かしたふるさと創造」に沿つて竜王山の自然



### ■竜王山周辺の自然

竜王山は総合公園だが草刈作業によって豊かな2次的自然が出現している。



さて、会場の「きらら交流館」は焼野海岸に在り、当日は好天に恵まれ周防灘の対岸に北九州が目の前に見え、由布岳・九重連山が遠望できました。ここは「日本夕日百選」「瀬戸内夢海道50選」に選ばれ、北にそびえる竜王山は山陽小野田市のランドマークでもあります。ここからの夜景は「日本夜景百選」になつており、ロケーションが素晴らしい所です。

■会場  
13日は開会セレモニーの後、本山会から基調講演ともいえる「竜王山周辺の自然について」の講演がありました。  
5月下旬から6月上旬には全山でヒルメボタルが乱舞する。その光はまさにクリスマスのイルミネーションを思わせる。蛍の研究者は「日本で有数の生息地」と言っている。2009年より行政とヒメボタルの最盛期の8～10日間車両の乗り入れを規制している。ヘッドライトの光で求愛行動を妨げないためである。ゲンジボタル・ハイケボタルも観られるが川がないので個体数は少ない。



前述した竜王山のお宝の価値は次の4つに分けられるだろう。

1. モリアザミの保全活動
2. 山野草の保護活動（案内板設置など）
3. ヒメボタルの保護活動
4. アサギマダラの休息地としての整備（アサギマダラおいでませ作戦・・後述）
5. 各種観察会開催
6. 行政への提言

1. 人為の影響下に成立した群落を含む山野草の生態的価値  
2. 教育的・文化的な価値  
3. 景觀・觀光的・經濟的価値  
4. 保護上重要な生息地としての価値

竜王山は市街地に囲まれた136mの低山で、早春から初冬まで四季折々多くの山野草が見られる。それは海岸性の植物と山地の植物が混在しているため山野草の宝庫となっています。早春のアマナから始まり秋のツルニンジンなど畠畠に違がない。また群落を形成しているのも特徴だ。ヒトリシズカ・コバノタツナミ・ウバユチ・モリアザミなどが挙げられます。これらの山野草に群がるチョウの種類も多い。渡り鳥の中継地にもなつており愛鳥家が集まっている。

5月下旬から6月上旬には全山でヒルメボタルが乱舞する。その光はまさにクリスマスのイルミネーションを思わせる。蛍の研究者は「日本で有数の生息地」と言っている。2009年より行政とヒメボタルの最盛期の8～10日間車両の乗り入れを規制している。ヘッドライトの光で求愛行動を妨げないためである。ゲンジボタル・ハイケボタルも観られるが川がないので個体数は少ない。

前述した竜王山のお宝の価値は次の4つに分けられるだろう。

1. 人為の影響下に成立した群落を含む山野草の生態的価値
2. 教育的・文化的な価値
3. 景觀・觀光的・經濟的価値
4. 保護上重要な生息地としての価値

竜王山の自然と共生しながら市のお宝として利活用することを、これから官学産民で摸索して行く・・・との内容でした。

### ■アサギマダラおいでませ作戦

本山会の大場清春会長が2010年から本山小学校の「緑の少年隊」と取り組んでいるアサギマダラおいでませ作戦の報告が行われました。

アサギマダラは「旅するチヨウ」と呼ばれ、春は西南諸島から本土に飛来し、秋には本土で生まれたチヨウが西南諸島を目指す。竜王山には10月初旬から11月初旬に訪れ休息する。

このチヨウが好むヒヨドリバナの仲間の花を植栽しアサギマダラを呼び込むのが「アサギマダラおいでませ作戦」である。竜王山に自生するヒヨドリバナなどの種を採取し、苗を育て他の生態に影響ない箇所を選んでいる。この結果期間中のアサギマダラの飛来数は次の通りとなつた。

2010年..1500頭  
2011年..2500頭

2012年..1200頭 (全国的に減少)  
この作戦の活動で子どもたちや市民、観光



客がアサギマダラを含めて竜王山の自然の素晴らしさを認識し、ふれあう機会が増えた。今後もこの活動を継続する。

### ■アサギマダラのマークリング

市内在住で「長州アサギマダラの会」の福村拓己氏がアサギマダラのマークリングの取り組みについて報告が行されました。氏のフィールドは九州の久留・下関市・竜王山です。

まさにアサギマダラに恋をしてその追っかけをしておられ、愛車は1年で3万キロ走行しているそうです。アサギマダラは謎が多くその解説が魅力の一つでもあります。氏は精力的にマークリングを行い、その中には



### ■竜王山ファイールドワーク

14日から交流

館から竜王山までゴミ拾いをしながらファイ

ルドワークを行いました。ヒヨドリバナの植栽地に杭を打ちロープ張りの共同作業も行いました。折からアサギ

マダラが大挙して飛来し参加者の皆さんに最高のプレゼントが出来ました。昨年の飛来はこの2日間がピークでした。

心地よい秋風に吹かれながら山頂の展望も楽しみ2日間のリレーミーティングを終え

ることが出来ました。

私たち本山会は今後も竜王山の自然と共生しながらこれらのお宝をさらに磨き、自然遺産として未来へ伝承していくことを考えていました。

沖縄県の伊良部島まで1200キロ渡り再捕獲されたこともあるそうです。そのような時は私は興奮したメールが飛び込んで来ます。私たちと連携しながらアサギマダラに取り組んでおられます。マークリングの実演も興味深いものでした。



## 共生隨筆

ワークショッピングはステキな手法  
ワークショッピングはおもしろい

NPO法人市民プロデュース

(ライフスタイル研究所)

船崎美智子

私は、ワークショッピングが大好きです。ワークショッピングとは、問題解決やトレーニングの手法、学びと創造の手法としてこの言葉が使われる事が多く、あらゆる分野で「ワークショッピング」が行われています。参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあつたり創り出したりする、双方指向的な学びと創造のスタイルとして定義されています。

今日は、自然環境に関するワークショッピングについて、少しお話したいと思います。

### ◆生き物をみつけるワークショッピング

子どもたちと一緒に森を歩き、植物や昆虫をみつけ、それらを観察します。森のどんな場所に生物がいたのか、どんな色の花が咲いていたのか、種や実をみつけたのか、じっくり見て、写真を撮ったり記録したり、地図に書き込みます。事前に記録用紙とマップをはさんだバインダー、それにカメラやスケッチ

を描く画用紙などを準備します。大きく目を開けて、注意深く生き物を探すことが大切です。自然と接する喜びや発見を感じることができるワークショッピングです。

◆自然と一体化するワークショッピング  
「さあみんな、この落ち葉の上に横になつて。」

子どもたちは一斉に落ち葉に身をゆだねます。落ち葉と一緒に化すると、まるでふかふかの腐葉土の中で暮らしている「カブトムシの幼虫」になつた気がします。横になつたまま空を見上げると、自然の中の人間つてちっぽけだなあと、私は感じます。

自然の中で生かされている神秘、感動を再発見できるワークショッピングです。

### ◆自然を守るためのアイデアを出すワークショッピング

これは、森や林に行かなくてもできる、みんなの知恵を出しあうワークショッピングです。「樅野川に生息するカブトガニの生息数を増やすためにはどうしたらいいのか」というテーマで考えた場合を例にあげましよう。個人が黙々とアイデアをカードに書き、その後カードを1枚ずつ読み上げ、似たカードを近くに貼り、これらに分かりやすいタイトルをつけます。グループ討議では、アイデアについて意見交換したり、実現可能なアイデアに高

めたりします。

たとえば、カブトガニの産卵場所の保全や、カブトガニを保護し繁殖させて海に帰すなどのアイデアが考えられます。課題解決のためのワークショッピングです。

一人では思いつかないようなアイデアが生まれたり、参加者の意見に触発されて新たな視点を発見できたりします。

ワークショッピングはおもしろい、ワークショッピングが大好き。私はこれからも新しい環境プログラム開発を目指し頑張りたいと思います。



## 弟見山のカタクリの保護

山口県自然観察指導員協議会 今井敏夫

弟見山の山頂付近にカタクリの自生地がある。防府市を主体とした自然観察友の会の会員たちが、ここ数年十二月に山頂付近の笹刈りを実施している。

笹を刈り、自生地の外に捨てている。その成果で山頂一帯にカタクリの花が咲きだして来た。



白雪姫が王子様の抱擁で目を覚ましたのだ。年々その数を増やしてきている。

花が咲くまで四～五年かかるようだ。

よく見るとマツバの様な一年目、葉っぱが一枚～二枚になりそして花を咲かす。

アチコチにその可愛い姿が見られる。

弟見山で沢山の山野草の妖精に出会えるようになつた。何と笹刈りをしていたら、ササユリの芽生えも増えてきている。

弟見山にはイワカガミの群落も沢山ある。

弟見山がカタクリやササユリやイワカガミで夢の花園になつてきている。

妖精達の楽園になつてきていている。

カタクリに会いに来る人が増えてきている様だ。

人が増えるとカタクリたちを踏みつけるようになる。

保護を、さらにバージョンアップしないといけないね。

カタクリの自生地として知られる寂地山ではロープで隔離したと聞くが、その後朽木に切り替えたそうだ。

化学品のロープを使うな、鉄の杭はダメだ、等々信じられない横やりが入るらしい。金も出さずに、口は出して、保護はしない。

埋没種だったカタクリが起きだした。  
会員たちは、王子様の気分だ。

これが自然保護の現状なのかな。  
何とかしないとまた埋没してしまう。  
保護つて難しいね。弟見山は今後も  
ぼちぼちと保護して行かねば・・・。



## 技術者教育と生命科学

徳山工業高等専門学校 天内和人

2004年に「生命科学」の教員として工業高等専門学校（高専）に赴任して間もなく10年が経とうとしています。高専は、中学校卒業後の早い段階から、主に工学・技術系の専門教育を施すことにより実践的技術者を養成することを目的とした高等教育機関です。赴任当初は、高専という特殊な教育プログラムにおける「生命科学」教育の立ち位置に迷うこともあり試行錯誤の日々が続きました。

その後、地球温暖化が大きな社会的問題となり、2011年には東日本大震災が発生しました。東日本大震災は、地震や津波による被害のみでなく、福島原発の事故を引き起こし、それによる放射能汚染など計り知れない被害をもたらしました。技術的に絶対に安全であると言われ続けてきた原発における事故は、今でも社会生活に大きな影響を及ぼしています。さらに最近では、コンビナート企業における爆発事故など、社会の安全・安心を脅かすような事件や事故が頻繁に発生し、科学技術に対する不信感が広まっています。しかし我々の社会生活が、日々の目覚まし

い科学技術の発展に支えられていることも否定できません。私の所属する学校が位置する山口県東部地域は、周南コンビナートを基幹産業として多種多様な産業が集積し、山口県の経済を支える大きな柱となっています。

今後、省エネルギーを推進し、環境への負荷が少ない持続的発展が可能な社会の構築を実現するためには、将来、地域産業を支えるべき学生達が、正しい科学技術に関する知識を身につけ、そのあり方を深く考える機会を提供しなければいけません。さらには、これを自然との共生などの実践活動に

結びつけ、そのための普及啓発活動を積極的に推進する必要があると考えています。2011年には有志の学生達を中心として「生物同好会」を設立しました。毎年春夏2回の秋吉台における洞窟昆虫の調査、「周南サイエンスアゴラ」の開催、「科学の甲子園」への参加などの活動を行っています。

「いかに作るか」から、「どのようなものを作るか」。これらの活動を通じ学生達の視線を転換し、環境や安全に配慮できる実践的技術者を育成する。これが高専における「生命科学」教育の立ち位置の一つではないかと思います。



洞窟昆虫調査



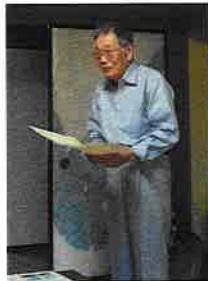
周南サイエンスアゴラ

## 祝 表彰

ネットワーク会員の皆さまの長年にわたる地道な取組が評価され、次のとおり表彰を受けられましたのでご紹介します。

### やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰

(趣旨) 山口県の豊かな自然環境を後世に引き継ぐことを目的とした自然環境保全活動に、特に顕著な功績があつた者(団体を含む。)に対し、その功績をたたえるため表彰を行う。(表彰日 平成24年6月3日)



#### ○伊藤忠雄(下関市 豊北町自然観察指導員会)

##### ・活動内容

豊北町自然観察指導員会の設立、角島の動植物の調査、保護・育成 等

### 平成24年度(公財)山口きらめき財団 理事長表彰

(趣旨) 過去5年以上にわたり、ボランティア活動、NPO活動、コミュニティ活動等の県民活動を行い又は支援し、地域福祉をはじめとした自主的・主体的な県民活動の推進等に寄与した団体、又は個人を表彰。(表彰日 平成24年11月13日)



#### ○秋吉台の自然に親しむ会(美祢市)

##### ・活動内容

長年にわたる  
秋吉台での自然  
観察会の開催、  
秋吉台ウォーキングマップの作  
製 等

### 平成24年度環境 学習功労者表彰

(趣旨) 地域におけるボランティア活動において、人を育てる環境学習の指導等を積極的に実施し、顕著な功績があつた個人であつて、他の模範となるものを知事が表彰し、もつて地域における環境学習の促進に資する。(表彰日 平成24年10月13日)



#### ○橋本順子(岩国市 森林インストラクター)

##### ・活動内容

山歩きによる自然観察や樹木観察など  
頗著な功績があつた者(団体を含む)に対し、環境大臣がその功績をたたえるために表彰を行う。(表彰日 平成24年6月29日)

#### ○出会いの森ファンクラブ(下関市)

##### ・活動内容

自然体験活動の場として「出会いの森」を整備、「森の探検隊」の開催 等

### ○錦川流域ネット交流会(岩国市)

##### ・活動内容

錦帶橋の古材を活用した「錦川源流の碑」の建立、錦川流域一斉清掃の実施等

### 平成24年度環境保全活動功労者表彰

(趣旨) 環境の保全のための啓発又は実践活動の推進に尽力し、その功績が特に顕著であると認められる個人又は団体であつて、他の模範となるものを知事が表彰し、もつて地域における環境保全活動の促進に資する。(表彰日 平成24年10月13日)

### ○秋吉台の自然に親しむ会(美祢市)

##### ・活動内容

長年にわたる  
秋吉台での自然  
観察会の開催、  
秋吉台ウォーキングマップの作  
製 等

### 平成24年度環境 学習功労者表彰

(趣旨) 地域におけるボランティア活動において、人を育てる環境学習の指導等を積極的に実施し、顕著な功績があつた個人であつて、他の模範となるものを知事が表彰し、もつて地域における環境学習の促進に資する。(表彰日 平成24年10月13日)



#### ○橋本順子(岩国市 森林インストラクター)

##### ・活動内容

山歩きによる自然観察や樹木観察など  
頗著な功績があつた者(団体を含む)に対し、環境大臣がその功績をたたえるために表彰を行う。(表彰日 平成24年6月29日)

#### ○出会いの森ファンクラブ(下関市)

##### ・活動内容

自然体験活動の場として「出会いの森」を整備、「森の探検隊」の開催 等